

本部企画シンポジウム

本部企画シンポジウム 1 / 「知徳体を育む」体育・スポーツ

コーディネーター：岡出 美則（日本体育大学）

2023年8月30日(水) 16:45 ～ 18:15 寒梅館ホール (寒梅館 1 F・地下 1 階ハーディーホール)

1999年に開催された第1回世界体育サミットを契機に、体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPSE)では体育、スポーツの価値を高める論義が活性化していく。良質の体育やフィジカルリテラシー、汚職防止やアンチ・ドーピング推進の試みは、スポーツの価値を基盤とし、スポーツを社会的課題の解決に向けた効果的なツールとして機能させる可能性を追求する試みといえる。

他方で、OCEDは、Education 2030（2018）に関連し、他教科に先駆け、体育のカリキュラム分析の結果を公表している（OECD,2019）。

このような一連の動きは、体育、スポーツの将来をスポーツの価値を踏まえて多くの関係者や論議していく必要性を示唆している。

そこで、本シンポジウムでは、冒頭に八田英二先生（学校法人同志社 総長・理事長）による基調講演の後に、JADAにおいて「2021Code/教育に関する国際基準の履行に向けた戦略計画」作成に関わってこられた山本真由美氏並びにOECDにおいてEducation 2030作成に係られた田熊美保氏にシンポジストとして御登壇いただき、体育並びにスポーツの将来に関わるスポーツ界並びに教育界の情報共有を図るとともに、その将来について論議することとした。

なお、本シンポジウムは、日本OECD共同研究(東京学芸大学事務局)との共同研究としても実施される。

[本部企画-S1-2]OECD未来の教育スキル2030プロジェクト国際比較カリキュラム分析から見る示唆

体育の価値付けと今後の方向性

*田熊 美保¹ (1. OECD教育・スキル局シニア政策アナリスト)

<演者略歴>

OECD教育スキル局シニア政策アナリスト。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）教育セクターを経て、経済協力開発機構（OECD）へ。OECD東北スクールの立ち上げや、移民の教育政策レビュー、ノンフォーマル教育評価政策、幼児教育保育政策分析、eラーニング事例研究などに関わる。現在、OECD未来の教育スキル2030プロジェクトマネージャー。

本発表では、① OECD Future of Education and Skills 2030・未来の教育スキル2030プロジェクト（以下、E2030）の大枠、② E2030の一環としてのカリキュラム分析、特に、体育・保健に特化したカリキュラム分析、③コロナ後の新たな国際議論の3点から「体育の価値」と「今後の体育の国際的な潮流」の紹介を目的とする。

OECD教育スキル局では、2015年より、E2030を実施し、新たな未来のビジョン創り（OECDキーコンピテンシーの再定義）と並行して、そのビジョンを教育の中で具現化する一つの政策レバーとして「カリキュラム」を政策分析の中核に添えている。ビジョンとして発表された「OECDラーニングコンパス」の中で、「体育」がどういったコンピテンシーと交差するのか、また、全ての教科を含む相対的な国際カリキュラム分析と並行し、教科に特化したカリキュラム分析として、「体育・保健」と「数学」が合意された。なぜ、「体育・保健」が選出・合意されたのかの国際的な背景にも言及し、18か国参加した分析の内容から、体育教育の国際的な価値付と、今後の方向性を紹介する。また、コロナ禍後、そしてウクライナ侵攻後に、様々な国が「体育（保健を含む）」の再価値付をしている方向性も紹介する。